

まちづくり出前市長室（鳴門西地区）開催記録

1. 日時：平成24年11月5日（月）午後7時から8時30分
 2. 場所：鳴門公民館
 3. 参加者：市民42人
市関係者（市長、副市長、教育長、政策監、市民環境部長、教育次長、危機管理局長、危機管理課、秘書広報課、市民協働推進課）
-

1. 鳴門西地区自治振興会会長あいさつ

2. 市長あいさつ

3. テーマに基づく意見交換

（テーマ：「地区自治振興会とまちづくり」～住民参加の現状と課題～）

会長 テーマである「地区自治振興会とまちづくり」を私から簡単に説明させていただきたい。

鳴門西地区自治振興会の活動は、花街道地域づくりネットワークの「花いっぱい運動」で、コスモス祭り、ヒマワリ・ハマボウ祭りを始め、たくさんの行事を行っている。ボランティアの皆さんにご協力いただき、すばらしい花づくり運動が展開されている。今は、コスモス祭りの時期であり、鳴門ウチノ海総合公園内には立派な花が咲いており、市外からも見に来ていただいている。環境美化等も、排水問題、不法投棄、草刈りなど、NPOボランティア鳴門西の皆さんと共に行っている。

健康づくりについては、ボウリング、グラウンドゴルフ、市が主催しているロードレースへの協力など様々な行事を行っている。高齢者福祉に関しては、高齢者の生活支援、協力、公民館まつりなどを行い、土曜日にはふれあい広場で産直市を開き、買い物に困難な方々から喜ばれている。また、健全育成では「放課後こども教室」や、お孫さん達の登下校時の見守り、自主防災についても、様々な検討を行っているところである。

この地域は、新しい住民が多く入ってきており、新住民と旧住民の関わりということで、なかなか難しい面もある。「潮の会」というボランティアグループがあり、そこには比較的若い人が入っているが、その他はほとんどが高齢者である。若い人にどのように誘いかけたら活動が広がるのか、市で何か良いアイデアがあれば教えていただきたい。

今回、子ども支援として、鳴門西地区の「元気っ子教室」が県教育長から表彰され、先日、市教育長から表彰状を受け取ったのでそれを見ていただきたい。地域の方の協力的な活動が認められ、賞をいただいたので報告させていただいた。

市長 会長から地域活動についてご報告をしていただき、一つひとつが素晴らしい活動で、私もコスモス祭りやその他色々なイベント等にお声掛けしていただき参加している。鳴門西地区自治振興会は、鳴門市のモデル的な存在で素晴らしい。団体がしっかりしていて、定例会に

は住民だけではなく、色々な団体の方も入り、特にリーダーシップを持ちながら取り組んでいただいていることが、非常に良いと思う。ご苦労もあるかもしれないが、鳴門西地区がモデルとなつていただくことで、他地区の自治振興会が追随していくことが多くあるので、今後も頑張つていただきたいと思っている。

一点みなさんにご案内したいことがある。川東地区自主防災会の岡崎のあるお宅では、家具転倒防止対策のモデルルームとして開放している。NHKの「ためしてガッテン」が、12月19日にこの取り組みを全国放送するので、ぜひ見ていただき、訪問して実際に見て欲しい。防災対策では津波のことが言われるが、津波の前には必ず地震が発生する。まずは、家具転倒防止が必要であり、耐震化もしていただきたい。その一歩になる家具転倒防止は、鳴門市の事業として進めているので活用していただきたい。

鳴門西地区については、環境・健康づくりなど様々な面で鳴門市のトップを走っていただいております。今後とも皆様と考えながら新しいまちづくりを進めていきたいのでご協力をよろしくお願ひしたい

4. 地域の課題について意見交換

市民 私たちは日ごろから、市民参加を目指しており、市の色々な会合に出席したいと考えているが、同じ時期に開催されている会合がたくさんある。市ホームページ等で会合等を掲載しているが、会合の時期が重なり、動員するだけでも大変である。だから、どこかの部署で一本化していただき、行事が重ならないようにして欲しい。

市長 以前から、他の地区でも同じような要望があった。特に、9月中旬から11月にかけては、土日に皆さんにご協力をいただきながら、色々なイベントが開催されている。

また、海岸清掃は、色々なボランティア団体に入っており、8月のシーズンに向けて6月には毎週のように清掃していただいている。年間を通じたら6月と7月に集中しており、時期を割振り1年間を通じたご協力をいただく方法はないかと考えている。

市の関係するイベント等については、各担当課で日程・内容・参加対象者等を企画段階から情報共有できるようなシステムを作り、市内ネットワークである「鳴門市情報化システム」を活用して、「各種イベント予定表」として運用を開始させていただいたところである。開始して間もないので、どれだけの効果が出てくるかわからないが、まず第1に市役所内部の情報を共有し、イベント等を集約できるようにスタートしたので、改善の第一歩と考えていただきたい。今後は、来年の春のイベント等を目指して順次進めていきたいと考えているので、ご協力をよろしくお願ひしたい。

市民 第六次鳴門市総合計画についてお伺ひしたい。総合計画は、市民や市の部課長の意見がまとめられ、大変よくできていると思う。重要なのは、その進捗状況の把握である。

“Plan, Do, Check, Action”と言われているが、これがうまく回らなければいけない。これがうまく回るためには、職員一人ひとりが「自分は何をすべきか」という目標をはっきりもつべきである。「今までこうしていたから、今回もこうしよう」とか、

あるいは、「部課長が言うから、こうしよう」ということではP D C Aサイクルは善循環しない。どのような進捗管理を進めて、目標の達成を図るのかについて、市長の所見を伺いたい。

市長 第六次鳴門市総合計画は、今年4月に始まったばかりである。第一次から第五次の総合計画もあった。先般、第五次総合計画の最終報告等をさせていただいており、P D C Aサイクルに基づきながら、順次変更をかけていく方法で行っている。

第六次からは、前期・後期計画のもとで、3年間を1つのサイクルとして進めていきたいと考えている。担当課に進捗状況を毎回出させており、それを見ながら特に遅れているものや、気が付いた点などは、私が自らチェックしている。公開はしていないが、各部長に「部長マニフェストを作成させ、自分の部は総合計画の中でどのように進めていくのか示すよう指示しており、今日もその中身をチェックした。半年経ったので、残り半年で最終的な評価を出していこうと思っている。私もチェックするし、部長の段階では各担当課、また課長も中身を細かく見て何重にもチェックを掛けていく。また、期間を限定することでどこまで達成できるかも十分チェックしていくので、今後ご報告させていただけると思っています。

市民 ゴミのことだが、駐在所前の資源ごみ置き場に、紙ごみ・缶・ペットボトル等がたくさん置かれていて周囲に飛び散っていた時があり片付けたことがある。ウォーキングのついでにしているので、片付けられない時もありどうしたらよいか。

それと、宗教法人から、何度断っても冊子を配布されて困っている。冊子に書いていた電話番号に掛けたら、しばらくは配布されなかったが、またポストに入っていて今度は送り返した。このような場合、冊子をポストに入れられないためにはどうすればよいか。

市民 駐在所前のごみ置き場は、潮の会が管理を行っている。資源ごみを各家庭からごみ置き場に出してもらい、回収作業をしており、見回りも計画的に行っている。最近、雑古紙も回収しているが、軽くて風で飛ぶことがある。毎日見回りに出ていて片付けているが、人数をもう少し増やすなどして対応したい。

市長 宗教活動や営業活動については、行政からは直接止めるのは難しい。

市民 高島の渡船について質問したい。高島の渡船は、説明なく運休しているが、どんな理由で運休しているのか予告をしてほしい。苦勞して橋を渡っているが、体力的にきつい。聞けば、船が老朽化しているとの答えが返ってくるが、それが確かな情報なのか利用している者にとっては、どれくらい船が耐えられるのか不安である。今後、船が動かなくなった際には、どんな方針が立てられているのか知りたい。

市長 渡船が止まってご迷惑をお掛けしており申し訳ない。10月14日から18日にかけての運休は、船体とスクリューを回すシャフトの間から入る海水の排水ができなくなって、運行に支障を来した。なぜ、このような状況になったかという、先ほども言われた通り、一つは船が古くなってきたからである。その後、修理をしたが、10月30日から31日にもう一度止まった。この原因は、排水ポンプが裂けて、裂け目からオイルに海水が入ってしまい、動かなくなったためである。これも原因は、船が古いからという話になる。

「なぜ連絡がないのか」とのことであるが、定期点検のためにドックに引き上げる際には「何月何日から○日間、引き揚げる」という連絡できるが、今回の10月14日については、予定外に止まってしまった。できるだけ早くご連絡させていただいたつもりであったが、故障した時間帯が、朝8時半ごろであり、ちょうど学生さんなど、乗客が一番多い時間帯だったために、申し訳なく思っている。10月31日の分についても、定期的な点検ではなく、急な故障であったので連絡が遅れてしまった。定期的な点検については、事前にご連絡させていただけるが、急な故障については、その場その場で対処しなければならない。できるだけ早い段階でご連絡させていただくのでご理解いただきたい。

高島一黒崎間を走っている船は、平成4年8月新造、約20年前に造ったものである。定員は43人で、船員は2人置いている。1日に26往復、年間約12万5,000人の利用があり、鳴門の市道と捉えている。

ちなみに、岡崎一土佐泊間の船は、平成7年12月新造で若干新しい。こちらは定員30人、船員2人、1日に23往復、年間約2万9,000人の利用がある。

もう1つは、堂浦一島田間を走っている、平成14年10月新造の船がある。これが定員12人の比較的小さめの船で、年間約7,000人の利用がある。このことから、高島一黒崎間の利用が一番多いが、船が一番古い状況がわかる。

「今後どうするのか、船はいつまで使えるのか」というお話だが、市としてはいつまで使えるのかわからない状態である。事前に点検・修理を行いながら、できるだけ長い間、運行していきたいと考えている。ご迷惑をお掛けしないようにしたいが、船が古いために、いつどうなるかわからないという不安もある。ただし、壊れてしまった場合には、もう一度検討しなければいけない。現状としては、今の船をできるだけ長く使いたいと考えており、新しいものに替えない限りは、いつか故障する可能性があると思っている。

市民 新しい船を造るとしたら、だいたいどれくらいの費用が掛かるのか。

市長 12人乗りの島田の渡船でも数千万円掛かったと思うが、43人乗りの船を造るとなれば、相当な費用が掛かるので、できるだけ長寿命化させたい。

市民 いつまで使えるのかわからない物に対して、かなりの人数が利用しているのにもかかわらず、「できるだけ今の船を使い続けていだけ」と聞こえるが、船が使えなくなった時の対策も何も立てていないということか。

市長 古いものは全て新しいものに替えていくというのではなく、今の船をできるだけ長く使っていくことが市の方針である。

市民 「全て新しいものにして欲しい」というよりも、朝の8時半だと、高校生は学校に通う時間帯であるし、大学生も向こう岸で待機していたと思う。その学生たちは、「船が来るのか、来ないのか」不安である。また、船が来るだろうと病院や買い物に行こうとしていた方もいる。掲示もなくそれに対応する何かが必要だ。例えば、代替船などを用意して、運ぶという方法も検討してくれるのではないかと思いを話させていただいた。

市長 タイミング的に、それができるかどうか今すぐにはわからないが、長期にわたって止まっているような場合には、代替的なものを当然ながら用意しなければいけないと思っている。

ただし、24時間体制を整えて、突発的な故障などにすぐさま対応することは出来かねる。

市民 私たちの足がなくならないように、ぜひ頑張ってください。新たに船を造ることを計画される場合には、高速道路の利用料金のように、乗船料金を徴収する方法も考えても良いのではないかと。また、インターネットなどで払い下げになっているような船なども利用できないか。

市長 渡し船は、非常に珍しい形状であり、普通の船をそのまま使えるものではない。

市民 老朽化した船をそのまま使うという考え方だけではなく、「何とかしなければ」という考えで問題視して、ぜひ、市として議論していただきたい。

市長 私だけの考えになるが、交通機関として、全体の位置づけの中で、考えなければいけないと思っている。たとえば、渡船ではなく、バスに替えるなどの方法がある。渡船を新しくするという方法だけではなく、全てを考えた中で、どうすれば良いか考えていくべきだと思っている。

市民 バスを定期的に通すのであれば、バスに自転車を乗せられるようにしてほしい。そうでもしなければ、向こう岸についてからの行動が不便である。JRは、自転車を積める車両を考えているようだが。

市長 何度も言うが、「渡船を新しいものにする」ということも一つの考え方であるが、より効率的に進めていこうとすれば、交通体系全体を見直す必要があるかもしれない。ご要望、ご意見としては十分に承る。

市民 そのことを市の中で議論してほしい。

市長 交通機関として色々な考え方の中で、議論を進めていきたい。

市民 鳴門西地区では、幼稚園、小学校、中学校ともに人数が増加している現状であり、園舎・校舎等を増設する予定もあると聞いていて、財政難の折に有難いと思っている。鳴門西小学校も過去に校舎は増設していただいているが、トイレの数が児童数の割に少ないので、低学年の児童のなかには休み時間にトイレに行けずに、漏らしてしまって家に帰る子どももいる。1人、2人ではなく、多くの方から聞いているので、トイレ、洗面等も含めて増設していただき、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるような場所を提供していただきたい。

市長 小学校のトイレの必要性も十分わかっている。子どもたちにとって、洋式・和式どちらが良いのかという議論も議会でしていただいている。ただし、トイレの増設については、今のところ市の計画には入っていない。幼稚園のほうは、園舎の増設はするが、耐震についても考えていかなければいけない。それらと併せて小学校のトイレも今後の検討課題にさせていただこうと思っている。

市民 市の財政を考えると「広報なると」に使われている紙の材質やインクの色などが贅沢ではないか。わら半紙で、必要な分だけ印刷したらもっと始末できるのではないかと。

市長 色々な考え方があるが、「広報なると」は、できるだけ皆さんに読んでいただきやすいような色使いをして、どこがポイントなのかを表している。また、一色刷りとカラー刷りを比較しても、ご心配をお掛けするほど、カラー刷りは市の財政面に負担をかけない。

鳴門市としては、カラーユニバーサルデザインを採用し、色弱者のかたでも十分判断できるように印刷している。全ての市民の方に読んでいただける工夫をしているので、ご提案としてはお伺いするが、今後も現状の「広報なると」で対応し、内容も充実していくのでご理解いただきたい。

市民 警報が出た際の公民館への対応についてお尋ねしたい。暴風警報が発令されると、各学校・幼稚園等に職員が待機している。公民館の場合は、災害対策本部が設置されたら市職員が来ているが、実際、警報は出ているが、災害対策本部が設置されていない時に避難されて来た方についてはどうすれば良いのか、そのあたりをお聞きしたい。

市長 この件については、前回の出前市長室でもご指摘をいただいた。災害時になかなか市職員が出て来ないとのことであった。それを受けて、「できる限り早めにそれぞれの場所に待機するように」とは考えているが、現状としては、段階を経て市は行動している。例えば、注意態勢、警戒態勢、最終的には災害対策本部を設置するなど。

災害対策本部を設置すれば、初めて市の全機関をフル稼働することになるので、その時にはすぐに行くことになるが、警戒本部は、それぞれの場合によって判断している。そのことが、地域には「一律ではない」と判断されると思う。数年前になるが、消防団の皆さんと話をさせていただいたとき、消防団の配置時期を一律に統一しようとの話もあったようだが、鳴門は、北から南、山間部や海岸部など地域性が色々あるので、独自判断をして行動をしていただくとのことで、一律にはしなかったそうである。

市としては、その都度、判断させていただきたいと思っているが、公民館については、夜間の場合などできる限り、素早く対応をさせていただきたい。

市民 もう一点、災害対策本部が設置され、鳴門西地区に市職員が配置されるが、鳴門市内在住の方ではないので、いざと言う時に間に合うのかと思う。以前であれば、高島の区内で対応してくれる方を探していたと思う。

市長 災害対策本部を設置した時、地元の職員等を配置すればどうかの話であるが、まさにその通りとは思っている。しかし、公共施設を管理するため、何名か職員が張り付いており、また、人的な面で市内の職員が非常に少ないこともある。

毎年、採用試験を行うが、市内在住の受験者は4分の1程度であり、残りの4分の3は市外の人なので、危機感を持っている状況である。一昨年から、消防職員については、市外や県外に住んでいる人でも、採用後に市内に住むことを条件に試験を行っている。昨年からは、一般職にもその条件を広げた。市の考え方としては、「地元で住んでいただく」ということであり、市の職員は地元のために働くので、そういう採用方法を取り、今後も続いていけば、市職員が地元で住むことが確立され対応ができていくと思っている。

「市外の人間に任せて良いのか」とのことであるが、もう少し精査させていただき、できるだけ近い、市内の職員を配置させていただこうと思っている。

市民 防災のことについてお聞きしたい。水門の管理をしており、台風時の大雨の時などは忙しい。鳴門市は、50mm以上の雨で警報が出ることになっている。50mm以上の雨に対して、高島ポンプ場は機能できるのかどうか、ポンプ場の増設はあるのかどうか、また、低水

位地区の改善対策はどのようにされるのか。

また、福永家住宅は、土地が低く、大潮の際にも浸水するので、浸水対策はどのようにするのか。また、老朽化した危険家屋の解体依頼を持ち主にしていただけるのかどうか。災害時の危険箇所の把握と対策についてもお聞きしたい。

市長 ポンプ場の件については以前も伺っている。平成10年度より高島ポンプ場の工事に着手し、平成17年4月に一部供用を開始している。時間雨量としては70mmで計画している。全体計画の3分の1の能力になっているが、既存排水機場も同時に稼働して排水を行っているため対応できているので、今のところこのままでいきたい。全体計画の総事業費が26億円である。現状は3分の1の能力であるが、今までで18億円支払っている。残り2基増設するのに8億円(4億円×2基)かかることから、現状を維持していくことが今の考え方であり、増設は難しいと思っている。

福永家についても議論をさせていただいているが、財政的な面で、ポンプや水路を抜く工事は難しいと思う。現状認識はしており、福永家をどのように活用するかを考える時に、排水対策をしなければ、きちんとした保存ができないので、今後調査をさせていただきたい。

また、老朽家屋解体の話であるが、解体指導は市ではなく県の管轄になる。もし危険な家屋等があれば、市から県の建築指導担当に連絡し、県から適切な指導をしていただくようになる。一つの例としては、キョーエイ鳴門駅前店の前にあるビルが傾いた時も全く同じ話であった。県の建築指導担当と市のまちづくり課と共同で話をして、県が所有者に指導をした。市には直接的な権限がないので、市のまちづくり課を通して、直接県に働きかけたいのでよろしくお願ひしたい。

危険箇所の把握は、皆さんから情報をいただきながら取り組みたい。今後、災害対策を行っていく際にも、避難ルートに危険箇所が入っていると非常に危険であることから、それを踏まえて調査させていただきたいので、情報をいただきたいと思っている。

低水位地区の改善だが、一つは三ツ石江尻山から合い水尾川あたりである。この区間については、ポンプの設置計画はないが、浸水対策が必要な地域であると認識している。市内のポンプ・排水機場施設は老朽化しているものが多く、新たに設置することは非常に難しい。

樋門の開閉の管理は地元の方にさせていただいており、今後、よく話し合いながら、水害防止に努めたい。箇所ごとに様々な条件等があり、なかなか難しく即答しにくいですが、個別にお話しただけならと思う。

市民 家が三ツ石にあるが、大潮の時ですら、水位が排水溝よりも上に上がってきている。せめてポンプを設置していただければ、その都度消防団の方に対応していただける。住宅が増えたため、雨が降っただけでも各家庭の排水と雨水が全てみどりの里横の水路に流れ込み低い方に逆流する。排水の仕方を変えてもらいたい。雨が降るたびに被害があり、水門の意味がなされていない。

市長 旧の三ツ石の地域と新たに開発された地域がアンバランスになっており、弱い地域に負担を掛けているという話と思う。イメージが湧きにくいので、一度現地に調査に行かせていただきたい。

市民 大潮や大雨の時には、地元議員や消防団の人が見回りに来てくれている。台風の際などは、そのあたり一帯に水が溢れるので「車を移動させてください」と言って回ってくれる。その時には別の場所に車を移動している。9年くらい前には、被害で車を3台くらいだめにした。

市民 毎年、中学校にあがる女子生徒から「中山黒山線を通学路として利用する予定でいるが、街灯や防犯灯が非常に少なく、部活等で帰りが遅くなり、日が短くなる時期は特に危ないので、街灯を設置してほしい」という要望を聞く。一部は設置されたが増設していただきたい。

市長 防犯灯・カーブミラー等の設置要望は非常に多い。この機会に設置基準について、皆さんに聴いていただきたい。ご要望があれば、設置箇所を必ず見に行かせていただく。そして、危険を伴う箇所から優先順位を付けて順次整備させていただいている。限られた予算の中でさせていただくので、必ず全てできるわけではない。

設置基準としては、認定の市道であることが大前提である。転落防止柵については、道路と水路の間の落差が1メートル以上ある場所、カーブミラーは、誰が見ても見通しの悪い場所、防犯灯に関しては、既設の街灯との間隔が100メートル以上離れていること、これを一つの基準にしている。防犯灯は、設置については地元、電気代は市が負担する。これらの基準に照らし合わせていただいて、設置が可能な場所は優先順位をつけて順次対応させていただく。

今回の中山黒山線は県道になるので、市から県に話をさせていただくが、県にも同じような基準があると思う。

会長 場所を具体的に伝えて、要望していきたい。

市民 市の事業でコミュニティビジネスを勉強して、一般社団法人を立ち上げ、「風の家」というコミュニティカフェをオープンさせた。市長も、一度、来てくださり、徳島新聞にも売り込んでいただき有難く思う。留学生やお年寄りが集まるような地域の居場所づくりをしていこうと考えているので、今後ご協力をよろしく願いたい。

市長 私もカフェで食事をしたが、非常においしかった。

市民 民生委員の件だが、この地区は世帯が増えてきているので、委員一人あたりの担当件数が増えている。他の地区は減っているところもあるので、調整をしていただけないか。

市長 民生児童委員1人あたりが持っている件数は、80～90件であるが、鳴門西地区では1人あたり500件くらいであるとの話も聞いたことがある。また、民生児童委員に関しては、仕事がどんどん増えてきていることも理解しているし、報酬も高いものでない。地域ごとにどれだけの割振りをしているのか即答できないが、調整ができれば一番良いので、調べさせていただき、返事をする。

市民 防災情報の発信方法について、市で何か対策ができているのか。警報が出たら、私たちはテレビで確認することが多い。警報が出たらポンプ場に職員が来て待機してくれているが、水門が開いているとポンプを作動しても意味がない。水門を開閉する者とポンプを作動させる職員の情報共有面の連携関係はどうなっているのか。

市長 鳴門市は、今まではなかった防災行政無線を整備しようとしている。来年以降、整備に取り掛かることができると思う。

もう1点は、ピンポイントでお知らせすることができないかとのことだが、私や副市長以

下の市幹部職員は「まちc o m iメール」に登録をしている。先般、自治振興会の会長さんにも登録していただいた。これにより、私たちが聞く、見る情報と同じ内容が自治振興会の会長にも届いている。より多くの市民の方に「まちc o m iメール」に入ってもらえれば、市幹部職員と同じ情報が届くので、災害情報・警報情報を確認していただける。登録の方法が複雑であるため、もし機会があれば市の方で登録をさせていただくので、樋門の管理者の方などに、そのことを広めていき、情報を共有することが大切であると思っている。ぜひとも登録をしていただきたい。

会長 成稔幼稚園長より、園舎増設についての経過報告をよろしくお願ひしたい。

成稔幼稚園長 成稔幼稚園では、園児が増加状況にあり、園舎増築の件で、色々ご配慮いただいた。おかげで、先週金曜日に市の担当者が園に来てくれ、設計図をもとに園職員を含め話を詰めているところである。8日に最終の打ち合わせがあり、その後、2部屋増築していただける予定である。今月も転入生があり、年少児60名、年長児56名で、計116名になっており、園児がかなり増えている状況なのでありがたい。

会長 まだ返答していただけていないことも多少あったが、今後、市長より、皆が期待できる返答をいただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

市長 皆さんからいただいたご意見・ご要望については、できる限り叶えさせていただけるよう努力していきたい。

渡船の件に関しても、実際にご利用される方の立場から考えると、切実な思いであることを十分認識している。ただし、鳴門市の財政を預かる者としては、要望に対して100%お聞きできるかは即答できない。あらゆることを考えて、より優先順位を付けながら満足をしていただけるように頑張っていきたい。

限られた投資額をどのように使っていくかを考えて、平成22年から「スーパー改革プラン」を作った。平成26年までの投資をどのようにするか決めたが、東日本大震災が発生したため、その投資の幅の中で防災事業も進め、より皆さんに満足していただけるように考えていかなければならず、非常に厳しい状況になっている。

もう1点は、国で「全国防災枠」という予算があったが、「国の復興予算を違う目的に流用しているのではないか」という議論の中で、それを大幅に削減しようという政府の動きがある。そうなると、市が考えている防災対策についても、違う財源を探していかなければならない厳しい状況になっている。その中でも皆さんのご要望をできるだけ叶えるように頑張るので、ご支援・ご協力をよろしくお願ひしたい。

(以 上)